

臨床研修修了にあたり

臨床研修修了にあたり

Aコース臨床研修歯科医 與儀 古都乃

2024年度臨床研修Aコースで研修歯科医としてお世話になっている、本学54期生の與儀古都乃と申します。今回このような原稿を書く機会を与えて頂いたので、研修生活について振り返ってみたいと思います。

まず私がAコースを選択した理由ですが、自分が担当医として一口腔単位で治療計画を考え、診療したいと思ったことが一番の理由でした。まずこの卒後1年間は専門分野に特化することなく、一般歯科治療の土台となる基礎の部分をじっくり学びたいと考えていました。

臨床研修が始まる前は、総合診療部での研修は学生の臨床実習の延長になってしまうのではないかと不安も正直ありました。でも、いざ診療が始まるとそのような気持ちは吹き飛びました。歯科医師免許を取得した以上、責任を持って診療に取り組むべきだという意識が高まり、患者さんに対してより良い医療を提供したいという強い思いを抱くようになりました。

診療が始まって、特に学生との違いを感じたのは時間の使い方でした。学生時代には3時間という制限時間の中で、目の前の処置をいかに効率よく進めるかに焦点を当てて診療を行っていました。しかし、研修歯科医になってからは、1時間半という限られた時間内で処置を何分で終え、次にどのような手順を踏むべきか、また中断する場合はどのタイミングが適切かを考えながら診療を進めるようになりました。初めのうちは、この時間の配分が非常に難しく、診療時間内に終わらないこともありましたが、時間を意識し、自分のペースを診療の中で掴むことで、徐々に効率的に時間を活用できるようになってきたと感じています。

また、係の仕事がある日は、急患対応したり先生方のアシストにつくのですが、アシストから学べることもたくさんあることに気づきました。アシストに付くときは小さなところも見逃さず、自分の診療で困ったときや疑問に感じた事をどう対処しているのか、例えば、ポジショニング、患者様の頭の角度、診療を早く終わらせることが出来る工夫など色々なところを観察しました。

総合診療部以外の場所でも病棟、摂食・嚥下リハ室、顎関節治療部にて研修を行いました。ここでは普段、総診では経験することができないような全身疾患を持った方や高齢者への治療や外科的技術を学ぶことができました。

臨床研修1年間は私にとってとても大きかったです。歯科のことはもちろん、それ以外にも色々学ぶことができました。歯科医としては未熟ですが、この1年間の経験を無駄にせず、今後活かしていきたいと考えています。そして、患者様の期待に応えることができる歯科医になりたいです。

最後に臨床研修でお世話になった先生方、看護師さん、衛生士さん、病院スタッフの方々、同期研修医の先生、本当にありがとうございました。



藤井先生の誕生日にて（筆者2列目左から2番目）

臨床研修終了にあたり

Bコース臨床研修歯科医 湯 浅 恵 伍

この度執筆を賜りました研修歯科医師の湯浅恵伍です。研修プログラムBで現在研修中です。プログラムBは、新潟大学の専門診療科と協力型研修施設で半年間ずつ研修するコースです。私の場合、4～9月は新潟労災病院の歯科口腔外科で、10月からは新潟大学の義歯診療科にて研修を積ませていただいております。

前半の研修先の新潟労災病院では、全身麻酔下および静脈麻酔下での手術やその助手、外来患者さんの口腔外科処置、周術期口腔管理、たまに一般的な歯科治療など様々な経験をさせていただきました。中でも、新潟労災病院では、歯科麻酔科医が常駐しているため手術室での麻酔下での手術が多く、智歯抜歯などの口腔外科処置を多く経験することができました。私は臨床実習では抜歯の症例がなく、一度も口腔外科処置の経験がない状態で研修が始まり、研修初期はなかなかうまくいかず悩む日々もありました。しかし、指導医の先生の丁寧なご指導に加え、日々の診療の中で、どのようにすると改善するのか、そのためには何が必要なかを考えて次回の診療に臨むことで、着実にレベルアップできたように感じております。難抜歯や水平埋伏智歯抜歯を多く経験することができ、自信をもって患者さんに臨むことができる

ようになるとともに、診療に向けての事前準備や、手技の予習などの日々の研鑽が重要なのだと実感しました。

10月から大学病院に戻り、後半の義歯診療科での研修が始まりました。義歯診療科では義歯やクラウン・ブリッジによる補綴処置や、う蝕処置、根管治療などの保存修復処置を現在経験しております。大学に戻ってきて実感したこととして、自分で治療計画を立てるという経験の不足でした。前半の新潟労災病院では多くの抜歯などの口腔外科処置を経験できましたが、他院から紹介されて来た患者の治療を行い、治療が終わると紹介元の歯科医院に患者が帰っていくことがほとんどであった前半の研修とは異なり、後半の研修では補綴処置を行うために治療が必要な歯を診断し、治療の順番を決めるなど、その患者さんに合った全顎的な治療計画を立案した上で、様々な治療を行う必要があります。治療の計画立案は歯科医師人生として必須のスキルです。現在、確かな経験と知識を持った指導医の下で、様々なことを学びながらそのスキルを研鑽することのできる環境にあるため、残りの研修期間も多くの知識や技術を学び、研鑽に励みたいと思います。

最後になりますが、ご指導いただきました先生方、衛生士さんに感謝申し上げます。研修医として一年間学んだこと忘れず、今後も歯科医師として日々努力してゆきたいと思います。最後までお読みいただき、ありがとうございました。